

発言者	内 容
事務局	開催宣言及び定足数確認
会議の公開・非公開	
崎元委員長	公開・非公開についての検討。 会議次第により公開しても支障がないと思われる旨説明。 他委員の同意があり、本日の会議は公開することに決定。
議題（1）平成23年度業務実績評価について	
崎元委員長	それでは、議事に入ります。  議題の(1)「平成23年度業務実績評価」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料1-1～資料1-3により「平成23年度業務実績評価」について説明。
崎元委員長	項目別評価について、委員の皆様方から何か、御意見、御質問があればお願いします。
坂本委員	科研費の応募率は97%だが獲得額が昨年度を下回ったということで、自己評価Bが1件あります(資料1-2の155)。 これは、外部要因もあるためB評価は厳しいとも思いましたが、やむを得ないかと思えます。
崎元委員長	項目別評価については、案のとおり確定してよろしいでしょうか。
委員一同	(了承の声あり。)
崎元委員長	資料1-3「平成23年度公立大学法人熊本県立大学業務実績評価書」の内容や表現について御意見をいただきたいと思えます。
坂本委員	資料1-3の2ページのただし書き部分についてです。 単位互換制度の構築について、県大の意思で先送りしたのか、それともコンソシアムの中で結論が出なかったのか、どちらでしょうか。 また、教員表彰制度については、研究活動の活性化の一手段としての意味合いであれば、「制度が運用されなかった」という表現は、多少表現が強すぎるのではないかと思います。

<p>崎元委員長</p>	<p>単位互換制度の構築については、法人からの説明によるとコンソーシアムで審議が進まなかったため、実施できなかったとのことでした。</p> <p>教員表彰制度については、学内での議論の結果、執行部と現場とがうまく調整できなかったため運用できなかったものと理解しています。</p> <p>研究活動の活性化という観点から取り組まれたものですので、表現をもう少し和らげるということについては問題ないと思いますが、事務局から補足があればお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>単位互換制度については、外的要因(コンソーシアム)で進まなかったという捉え方もできると思います。表現を少し改めてもいいと思います。</p> <p>教員表彰については、年度計画に記載した事項(ベストプロフェッサー賞の運用)は実施されていないということで、<u>資料1-3</u>には課題として記載したところですが、委員御指摘のとおり、課題として取り扱うか否かという議論はあるかと存じます。</p>
<p>崎元委員長</p>	<p>新たな単位互換制度の検討は、年度計画においては、コンソーシアムの検討報告を受けて実施すると記載しているので、年度評価において課題とするには、少し厳しいのではないかと思います。</p> <p>一方、中期計画(<u>資料2-2</u>の<u>28</u>)では、「幅広い科目を提供するため、他大学と連携し単位互換制度の拡充を図る」とされていますが、この6年間では制度の拡充が図られなかったため、期間評価においては若干のコメントをせざるを得ないと思います。</p> <p>第2期中期計画においては、単位互換制度に係る計画はありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>第2期中期計画において、単位互換に関する特段の記載はありませんが、第2期中期計画について法人は項目の重点化を図りましたので、その結果として入らなかったというのものではないかと思います。</p> <p>単位互換制度は、第1期では「多様な教育方法や手段」という中期目標に対応するものとして掲げられていました。</p> <p>第2期でも中期目標に、「多様な教育方法を実施」と掲げていますので、それに対応する年度計画を立てられてもおかしくありませんし、中期計画に記載していないから実施しないということではないと思います。</p>
<p>崎元委員長</p>	<p>法人には、単位互換にこだわらず、大学間連携を更に強化して、質の高い教育が達成できるように努力してほしいと考えます。</p> <p>中期計画に掲げられた「他大学と連携し単位互換制度の拡充を図る」ことは実施できていないため、期間評価としては課題として取り扱うのが適当ではないかと考えますが、年度評価で課題にするのは坂本委員の御指摘のように厳しいと考えますので、年度評価で課題とせず、期間評価で課題とするのは可能ですか。</p>
<p>池田委員</p>	<p>今まで、中期目標期間内において年度評価で全く課題としないのであれば、期間評価でも課題でないということになりませんか。</p>

事務局	御指摘のとおり、これまでの年度評価で指摘していませんが、単位互換制度は簡単に達成できる事柄ではないので、本来は評価とまではいかずとも毎年度の進捗状況を確認することがあってもよかったかもしれません。 そのような捉え方をすれば期間評価で記載する方法はあると思います。
崎元委員長	24年度以降に協議検討するということは、第2期の目標・計画に記載されてなくても、実施するというを法人自らが言っているということだと思います。
事務局	そのように認識しています。
池田委員	この件については、法人が自ら先送りをしたのか、それとも外部要因により先送りせざるを得なかったのか、どちらでしょうか。
崎元委員長	法人は、「平成24年度以降、協議・検討を続けることとなった」と記載しています。平成24年度以降、協議・検討するということは、先送りしたことと同義だと思います。
事務局	前回の評価委員会で、副学長から、コンソーシアムにおいて、専門科目と共通教育科目のどちらを単位互換させるべきなのかという議論、単位互換ではなく共通のプログラムによる単位認定が有効ではないかという議論が、現在行われているという説明がありました。 この件については、まだ、かなり基本的な議論という感じを受けます。 結論に至るまでには時間がかかるものと思います。当面1年先送ったという感じではありませんので、確かにこの表現は適当でないかもしれません。
崎元委員長	期間評価(資料2-3の4ページ)の(コ)の表現は、後程検討することにして、年度評価(資料1-2の13ページの28)については、課題としないことにしたいと思います。
崎元委員長	次に、教員表彰制度の表現が強すぎるという御意見ですが、他の委員の御意見はいかがでしょうか。 ベストプロフェッサー賞の運用が行われなかったことは事実としてあるので、そのまま事実として表現するか、あるいは、その前に修飾語を付けて表現するかということだと思います。
坂本委員	今後、教員表彰制度を行うつもりはないということですか。
崎元委員長	その議論をもう一度行うのが、難しいのではないかと思います。
事務局	前回の委員会では、委員長の方から「この件について議論が続けられますか」と言われた時に、学長は「やります」と言われたと思います。 表彰に限定してということではなくて、教員の評価制度をうまく運用して研究活動を活性化させる方策について、今後検討していくという趣旨だったと考えています。

崎元委員長	<p>この文章は、「教員表彰制度」と一般化せず、「教育研究活動の活性化策の一環として設けたベストプロフェッサー賞が運用されなかった」とするのが適当だと思います。</p> <p>顕彰をしてインセンティブを与えるという大きな取組についてはまだやる余地を残さないといけないと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員一同	(了承の声あり。)
崎元委員長	<p>そのように変えさせていただきます。</p> <p>教育も研究も社会貢献も全て成果を上げた教員がベストプロフェッサーだとすると、ベストプロフェッサー賞の定義が幅広すぎたのではないかと思います。</p> <p>私は、前回、ベストティーチャー賞は、学生がこの先生はよく教えてくれるという評価の賞であり、学長ではなく学生が決めるということで、信頼度がかなり高いという熊大の例をお話しました。</p> <p>最近には様々な大学の教員が、表彰を受賞したことを履歴書によく書きます。それは外部の人が見たときに、「この先生は教育に熱心だ」と考えますので、学内だけのインセンティブではなく、学外的にも受賞した教員は評価が得られるので、単なる昇給だけのものではないと感じています。</p>
事務局	<p><u>資料1-3</u>の4ページの②(イ)については、「ベストプロフェッサー賞の運用については行われなかったものと評価する」と、「教育研究の質の向上に資するような教員評価制度について検討し今後実効性のある制度として運用されることを期待する」という記載でよろしいでしょうか。</p>
崎元委員長	<p>その表現で「今後もう少し考えてやっていただくことを期待する」という意味になるでしょう。</p> <p>年度評価はこれでよろしいでしょうか。</p>
委員一同	(了承の声あり。)
崎元委員長	<p>委員の皆様におかれましては、大変御多忙のことと存じますので、9月議会前にもう1回委員会を開催することは実質的に難しいと考えております。</p> <p>最終的な文書校正は私に一任いただき事務局と調整をさせていただければと考えておりますが、いかがでしょうか。</p>
委員一同	(異議なしの声あり。)
崎元委員長	<p>修正内容については、私から事務局に指示し、評価書の最終案を作成いたします。</p> <p>続いて、その最終案を各委員にお送りし、委員の皆さま全員の御了解をいただき、最終的な評価書として決定します。</p> <p>以上のように考えておりますが、いかがでしょうか。</p>
委員一同	(了承の声あり。)

崎元委員長	ありがとうございました。それでは、ここで5分間休憩をはさみたいと思います。
議題（2）第1期中期目標期間業務実績評価について	
崎元委員長	再開します。議題の(2)「第1期中期目標期間業務実績評価」についての説明を、事務局からお願いします。
事務局	資料2-1～資料2-3により「第1期中期目標期間業務実績評価」について説明。
崎元委員長	項目別評価について、資料2-1の4ページの28、単位互換制度の拡充については、私から提案ですが、課題とすることにして少し表現を和らげたいと思います。 制度の拡充を図ることは実現できなかった。年度毎では課題としなかったですが、中期目標期間全体を通して中期計画は実現できなかった。そのような課題とし、「互換制度の構築に向けた取組についても平成24年度以降に協議・検討することとなり、制度の拡充は実現できなかった。」という表現とするということで、いかがでしょうか。
委員一同	（了承の声あり。）
崎元委員長	次に、資料2-1の4ページの43、専任教員による授業対応は、「着実」ということでよろしいでしょうか。
委員一同	（了承の声あり。）
崎元委員長	次に、資料2-1の4ページの144、これは、資料2-2の59ページに記載があります。 法人の自己評価はAとなっていますが、平成18年度～平成23年度の年度評価の結果は、CCAABBとなっていることを重視して、委員会評価はBとしてはいかがかとの委員の意見が出ておりますが、皆様いかがでしょうか。
委員一同	（Bが適当であるとの声あり。）
崎元委員長	項目別についてはお認めいただきましたので、次に、資料2-3の表現、文書等について御意見をいただきたいと思います。  4ページの(コ)、単位互換制度については、先程のような文章に訂正します。 また、その後に「eラーニング導入の検討を含め、熊本県立大学の特徴を生かせる、より良い単位互換制度の構築に向けて第2期中期目標期間において鋭意検討されることを期待する。」という文言を付しています。  現状の形での単位互換制度の推進は非常に困難ですので、今後はeラーニング等の遠隔教育を導入して、単位互換を行う方向がよろしいのではないかと、また、県大は熊本学あるいは地域学の蓄積があるので、それらをコンテンツ化して、eラーニングの項目とする方向性で努力いただきたいと考え、そのような文言を付け加えました。よろしいでしょうか。

委員一同	(了承の声あり。)
崎元委員長	他に何かございませんでしょうか。
坂本委員	<p>全体評価について、3点あります。</p> <p>1点目は、6年間の評価ということで、中期目標が、①教育、②研究、③地域貢献、④国際交流、⑤学生生活支援という構成になっていますので、全体評価についてもこの構成にすべきと考えます。</p> <p>よって、国際交流と学生生活支援についても評価を記載した方が適当ではないでしょうか。</p> <p>2点目は、全体評価の冒頭の部分です。</p> <p>「公立大学法人熊本県立大学は、…平成18年4月に設立された」との記載では、県大が新設されたような印象を受けますので、表現を工夫した方がよいのではないかと思います。</p> <p>3点目は、「教育について」の段落の表現です。</p> <p>「育成する能力及び養成する人材像を学位授与方針によって明確化し」とありますが、「能力及び人材像の明確化」は、その後に記載されている「キャリアデザイン教育」や「もやいすと育成プログラム」と並列であると考えますので、ここも表現を工夫した方がよいのではないかと思います。</p>
崎元委員長	国際交流及び学生生活支援についての評価を少し文章として入れることについて、他の委員の皆様もよろしいでしょうか。
委員一同	(同意の声あり。)
崎元委員長	2点目及び3点目の御指摘については、どうでしょうか。
事務局	<p>2点目につきましては、法人としては設立になりますので、「県立大学の運営が法人に移行された」とのような表現になると思います。</p> <p>3点目につきましては、御指摘のとおりですので、「明確化するとともに」で接続したいと考えます。</p>
清家委員	<p>資料2-3の7ページで「授業料収入、入学金収入、検定料収入等の自己収入の拡大」とありますが、中期目標期間において拡大したのでしょうか。</p> <p>着実に収入は確保されていますが、拡大と言っているものか疑問に感じました。</p>
事務局	<p>資料2-2の72ページに、中期計画策定時の予算と実績を比較した表がありますが、実績額が予算よりも増えております。</p> <p>これは法人の成果として認められるものではないかと考えました。</p>
清家委員	疑問は解消しました。確かに授業料収入で大きく拡大しているので、この表現で間違いはないかと思います。
坂本委員	資料2-2の32ページに教員が学協会等から表彰された実績が記載されていますが、評価しなくてよいのでしょうか。

崎元委員長	<p>学会賞ですから学会の中では評価されていると思います。 私は、それに加えて、研究水準を確保するために、教員に論文の発表に係る数値目標を掲げたことが評価に値すると思います。</p> <p>それでは、資料2-3の4ページ、②研究(ア)「科研費補助金のこと高く評価できる」に続けて、「また、全教員に論文発表等の数値目標を設定する等の取組を行った結果、教員の研究が評価され、複数の学会賞を獲得した。」と付記することとしては、いかがでしょうか。</p>
崎元委員長	<p>それでは、特に御意見がなければ修正も含めて評価書を作成させていただきます。修正等につきましては、年度評価と同様、私に一任させていただきますでしょうか。</p>
委員一同	<p>(了承の声あり。)</p>
崎元委員長	<p>後の手続きについて事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>決定後は、アンダーラインと年度計画番号を取ったものとしますので、御了解願います。</p> <p>また、今後のスケジュールとしましては、評価実施要領に基づき、法人の意見を聴くこととなります。</p> <p>法人からの意見があった場合は、修正の場合と同様に、委員長とご相談のうえ対応させていただきたいと思えます。</p> <p>その後、評価委員会から、この評価結果について知事に対しては報告、法人に対しては通知をする運びとなります。</p> <p>なお、9月頃には、この評価結果を県民に公表することとしており、具体的には県のホームページを通じての公表を考えております。</p> <p>また、併せて県においては、9月県議会において報告する予定としております。</p> <p>今年度の評価委員会は、本日をもちまして最後となります。</p>
岡本文書 私学局長	<p>&lt;挨拶&gt;</p>
崎元委員長	<p>閉会宣言</p>